



特別
~13
368
1



阿曲氏
惟書

祇園物語上

若松く妻のいとのどやうふ。花もりりかたう。ぬぐれば
 老乃意を乃屋んと。友方々人共一人といさあひ事よ
 竹筒を杖を杖よゆらせ。东山祇園のうらぬ。あつらふ。
 鴨のいさだり流よはとす。ぎんやなとわつひて打
 法ま海りけりふ。我のこあもつらむ。或ハわり養女房
 の人あまを引つま。まめりりせふもあり又ハ耳順
 ぬほまりり。老人の。おさあれもの。まを引。對^まこゆ
 をかへ。あやう。こねひくせありら。海とふ浴^ゆ所
 風舞^か雲^らとほららもかやわん。さすうたのうらか
 ひもあやうなりし事とあつらふ。さそね原をひまは。真^ま命^まと

門 368 卷

女上

うららりむつゝ海をのべりたありきりあり。あふき海
きぎ人あつハわたり。いふ物をもんとす。さうさうさうさう
あつゝ焼のあつひき風よかのまきさうはかどん
おつゝあつひき我なうさつふりおそ内おハ侍
と。おつゝさ人おわりの傍もあり。何人ともさうと七八
人おじなり。何とともは人おさうさうさう。茶をのこ
おつひこの物さうさうさう。あつゝさうさうおつひおつ
おつゝんとおつひ中お入たさつおつゝおつひおつゝ
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう

あつゝの人々お。二三千とおつゝもあつゝ也。おつひ中の
おつひさうさうにわつゝ海を物さうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう
おつゝさうさうさうおつゝさうさうさうさうさうさう

紙上

二

作る久童童ハ行つてぬ終とふじこを尸せり。鄭家の
の厚のハ詩とてふと厚んぞれ一近比鳥丸とこ
とり一に所用れ物中もあつと物中をふまより行
ゆ。家のあつハ数とてまは。立ゆんとせしに。おこり
十二三たり。ひあれおし。何の物中乃所用は。おおく
久とて。奏れ子。作若れ名ま。あふふ尸ける。蓋母う三
遷と思ひつて。寺れけり。に象をいふ。事れは。何のあつ
たり。指をいふと。かこと造ゆと。同一世れ。いふと。ま
善と。あつ。わつ。まわり。あつ。まは。えと。あつ。あひせん。と。あ
ハ。物中の。より。う。ひ。能。わ。さ。なり。雅人。も。せん。の。あり。と。あ
は。え。り。り。と。い。ん。や。い。り。れ。人の。登。来。て。ま。れ。な。か
は。ハ。え。く。終。り。あ。る。ハ。あ。じ。入。ま。り。程。の。な。く。さ。い。ん。に。物。終
久。入。る。日。作。の。れ。れ。う。く。い。処。と。わ。く。さ。れ。け。り。尸。を。さ。え
げ。物。ご。り。ハ。上。下。二。無。の。大。く。ハ。宣。言。と。尸。の。上。奏。ふ
ハ。法。あ。ま。の。り。乃。以。礼。と。翁。と。多。く。回。答。あり。下。奏。ふ。法
あ。り。也。下。向。の。乃。ま。う。沙。門。の。法。を。う。り。と。め。さ。く
お。り。る。き。さ。は。た。も。あ。り。と。う。に。法。水。上。下。向。の。耐。れ。を
さ。後。を。書。い。ふ。り。う。法。水。物。ご。り。と。尸。也。た。一。法。あ。乃
る。に。と。世。上。の。人。乃。公。の。あ。れ。を。あ。ひ。け。り。ゆ。り。や。ま。ん
作。若。乃。中。を。と。あ。ず。つ。物。ご。り。ふ。日。以。礼。同。く。日。
観。音。經。の。説。を。形。を。と。う。ひ。ふ。ふ。一。多。ひ。觀。音。者。と。と。あ
あ。ん。と。の。ハ。衆。れ。衆。衆。を。の。う。ま。え。母。事。う。あ。ず。と。

まハ。え。く。終。り。あ。る。ハ。あ。じ。入。ま。り。程。の。な。く。さ。い。ん。に。物。終
久。入。る。日。作。の。れ。れ。う。く。い。処。と。わ。く。さ。れ。け。り。尸。を。さ。え
げ。物。ご。り。ハ。上。下。二。無。の。大。く。ハ。宣。言。と。尸。の。上。奏。ふ
ハ。法。あ。ま。の。り。乃。以。礼。と。翁。と。多。く。回。答。あり。下。奏。ふ。法
あ。り。也。下。向。の。乃。ま。う。沙。門。の。法。を。う。り。と。め。さ。く
お。り。る。き。さ。は。た。も。あ。り。と。う。に。法。水。上。下。向。の。耐。れ。を
さ。後。を。書。い。ふ。り。う。法。水。物。ご。り。と。尸。也。た。一。法。あ。乃
る。に。と。世。上。の。人。乃。公。の。あ。れ。を。あ。ひ。け。り。ゆ。り。や。ま。ん
作。若。乃。中。を。と。あ。ず。つ。物。ご。り。ふ。日。以。礼。同。く。日。
観。音。經。の。説。を。形。を。と。う。ひ。ふ。ふ。一。多。ひ。觀。音。者。と。と。あ
あ。ん。と。の。ハ。衆。れ。衆。衆。を。の。う。ま。え。母。事。う。あ。ず。と。

ありまのあふ若きとてうたふとげ人俄は見えん
けきこも鴨ゆはらとやふれが殿てうと終ら。国を
乃由並引てゆきけるよ。あぐらまぬる乃てな乃
し一。鳴たのまひとまけり。なぬ乃白。此乃中ぬく
まひとすうなうごうにうと終らまじと。今とや
あうまひぬぐ。まひとすうとて。うそのなぬ終らと。
罪よおころひのちりとなり。ううと。夢とあふうとあふ。
六時は念。三業ふ教を。災難とのまじらんとや。災難あふ
ひ。俄あひか。会一たら。俄ふるれまひとすうとあふとあふ
利益たうるべ。お書云。儻然者浮陽之真也。朕控
沙而思水。則無速。自挂於患。而欲禮。則至益。とてり。

浮陽と。P真。あ乃よりうら。陽気にもひひらひ
さひ。真とPたつ。人のめらさ。いとP。あひのり。そ真
水とらりて。あとならふと。おふと。今乃災難よ。か
己。俄ふる。い。まんとすうと。無あら。なりとP。ことむ
なり。と乃経流よ。あひひらう。こまを。あ書に。渴よ
のぞて。俄よ升と。なり。飢よ。乃ぞ。んで。苗と。う。移ら
こ。こ。もP。せり。又。涅槃経の中に。信。言。恒受。P
事あり。是。六。劫。世。に。流。く。信。并。と。信。一。お。難。乃。を
福よ。大。か。う。と。む。未。来。乃。無。難。乃。定。者。と。持。て。今。生。よ
す。う。乃。災。難。か。と。ふ。あ。ひ。て。あ。く。流。轉。乃。る。一。こ。と。を。難
ぬ。る。あり。あ。れ。と。う。り。信。者。よ。災。難。あり。摩。訶。成。教。と。

紙上

二

かくらひばるる世帯はこれぞ一歩も進むべき事なり
 その後代も久しく後継きたらば此事もおぼろけ
 来る事をおぼろけたり。後継は必ず此の中より行きて
 こそあるべきなり。孔子は必ず此の時分は天下乱國
 也。孔子は必ず此の時分は天下乱國也。孔子は必ず
 此の時分は天下乱國也。孔子は必ず此の時分は天下
 乱國也。孔子は必ず此の時分は天下乱國也。孔子は
 必ず此の時分は天下乱國也。孔子は必ず此の時分は
 天下乱國也。孔子は必ず此の時分は天下乱國也。孔
 子は必ず此の時分は天下乱國也。孔子は必ず此の時
 分は天下乱國也。孔子は必ず此の時分は天下乱國也。

宋の代よりありて。孝文さうりにあり。一時この志
 多減さこの世帯は一歩も進まず。大いに十の程は
 これまでハおぼろけなり。大いに十の程はこれまで
 一歩も進まず。孝文さうりにありて。孝文さうりに
 ありて。孝文さうりにありて。孝文さうりにありて。
 孝文さうりにありて。孝文さうりにありて。孝文さう
 りにありて。孝文さうりにありて。孝文さうりにあり
 て。孝文さうりにありて。孝文さうりにありて。孝文
 さうりにありて。孝文さうりにありて。孝文さうりに
 ありて。孝文さうりにありて。孝文さうりにありて。

いふ事ありとせむ。うごはくしてあつりてあり。力
乃新ひよまきんたう今世お用ひてうん人を
とすす。中といふてう物ひらわればよまきり。
あつりてとあつてあつておつりたかうまきり
あつてあつて。まきりてあつてあつて。中乃まきりと
す。下の学文ハ文字あまきりおひえひらうまきり。物
まきりてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
まきりてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
まきりてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

信曰地よりあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
ま乃世おひよまきりあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

ねとひんとしてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
得失たう紙ありあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
す信と惜えあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
学文とすうあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
勅学篇或ハ勅学或崇学たうとあつてあつてあつてあつてあつて
と学文と肝要とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
と退教の是とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
楫とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
車とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

及理と六物チとらふ乃とく君ハ仁とたり一は忠節
と云けおやハ忠ちひ也よとくまると子ハ孝うやうや行とされ
と一友ハ修しゆとす事ことす乃ふたうぬとりあらん
が理り也とありゆハ孝うやうや又よとく一とされと荊璠けいはん未
みとくあのみと耀うやう夜の光ひかりの照てら行ゆきつとくま
まんと鳳音ほうおん乃彌ひび音おんあつと宮尼みやにハ没なしとえみのが
足あしてもふ春はるとすくと仲舒ちゆうしゆハ卒すになんくとす
おはふ漏もらすらふと屋やめす有子うしハ外げもととあ
そとああのまこと掌てのひらと摧くだき蕪う生せいハ睡ねとくれひと力
つとく乃股ひざととふふがう一孔くわう聖せいとと童謡どうやう乃助のすけ
うらと商羊しょうやう萍へい実じつれ瑞ずいととり流ながり庸愚うんぐり一

己の及およとすまのひらと理也り也やと志しん鏡かみめつけと
あつとるあんいんたや月つきととり日ひ送おくりりて蒙もう
と年としとくくらんや昼ひる夜よひらり相あひまやう学まな文ぶんハ
ときと哲てつ之し一乃一修しゆの志しありとくあよとくあ
とすらと修しゆわと一
一又次または順じゆん礼れい曰いとるややはたりあき事ことああとる何なにと
と其その事ことの形かたちととひあしてゆきめんハつと答こた目め
其そのまことと死しとら物ものハ何なにあくと所ところの事ことととわらりの
あくとあの表うらととひらひけまとも冬ふゆはうすくとと
まら冬ふゆハ小袖せうそでの事こととと表うらまとてらうとひられ也
何なにうけりあきととと事ことりみあああととるあ

丁酉物あくひ。今まていまる事あくひ。や
 昔あ事あ時ううぬまへん。あさ事なるまへ也
 ううぬ物あ常五五人のみらうてううまへん
 てのああく。あくうぬまへんぬああうりあへん
 三百八十四時乃ううううの時一まふまうまうり
 何月何ふうりてううへあ也

鐘 蕤

傍日たふううの時ふうりゆの下。世果則事及時易
 則俗易とらう。聖人の時よまううひてるとあふた
 尸きうの荒蕤とまて。遊賓よあ。諦結とまて。蕤
 鐘と名く衣あまふあうま。時よたふ括るる。蕤
 風あけうれ。宿稷木とらうす。炎気むむの時。曹

陽の時乃一字はしうう。孔子も聖の時まへん
 としうり。佛法も時とすと。法と弘家小時とあ
 祿利益あ。正像末乃三時とまて。時よ相益法
 とひあめひ法を死守時とすうり。又挿受杖伏の
 二乃么とあり。とくハ旌旗と廟堂よま。俎豆と策
 門よおうハ相益をぬかたり。されハ法とひあめひ
 舟禪のひあひの時とあり。律と弘時とあり。經院
 よあううひて時とあうま。うまは法師とら申
 利益の時ふうりうう。あうああつる事とあうと
 足ふう。得時者昌也とらせり

一又次小唄礼曰は國々をんめりしお人の公祿を
たりし人かかたふあううううはむ人何うう
まけすこあう風信のち張まことおけりまけや
翁曰うてう乃人の公をあらうれ今もあつて
ゆりんとおわし其子細きうふまけを記事いさり
まてんとゆり乃の程まけ乃実しぬまのい記おう乃
すめとまうのまてり人今あし人の又ううう日
ま宗の中よ何のまてとまてまけううたまて人
そあうう記とてゆりまててさてれ人
命まけ賊室まげうら堂塔よ人おらみてし
と人のまてり乃記とみてゆりまて目

見ゆ力よまうまうまう乃公あし人の
天地の存理目のまの事あてまてまてまて
みまて人うむまて人まて一乃まてまてまて
乃乃風信あてたりゆりまてまてまてまて
るのまてあて人の公祿とい記まてまてゆり
しこまてまて
傷目わつ約の公もまてまて今もあつて
乃まて人のまてまてまてまて今も
まてまてまてまてまてまてまてまて
りんわつ約の公のま利智まてまてまて
まてまてまてまてまてまてまてまて
まてまてまてまてまてまてまてまて

代上

代上

かく志くわするあゆみなれんともう。あつるふ今三り
 志くふなる人おろくといふ。或は此のほり目書
 あり。されとも。これとも金銀は使て。歎く日本
 乃人なりともう。らんか。あつるも。歎くはり
 たりあり。まきさ。まき。一向宗日蓮宗人。能宗
 引ふ。と。信。お。け。り。と。う。り。志くふ。う。り。お。ま。き。あり。
 日蓮宗一向宗の具形なるふと志くぬ。似て又あり
 ありたり。そのゆへ。乃先。親く。仏家。あり。桑門
 と。お。て。師。乃。と。く。ま。き。け。て。一。分。法。乃。法。深。を
 あり。と。う。く。納。め。し。う。乃。よ。ふ。それ。乃。宗。方。と。定。の。
 こと。ま。け。ぬ。と。や。ま。ふ。あ。つ。じ。う。乃。子。孫。ハ。先。祖。お。ま。

名。修。力。と。う。り。堂。塔。と。建。立。し。信。室。を。供。養。す。り。く。
 か。あ。つ。れる。ハ。能。宗。の。う。す。く。ま。り。ハ。あ。じ。二。向。宗。法。
 能。宗。と。う。り。親。し。て。之。能。宗。ハ。利。根。う。あ。つ。す。され。え
 日本。の。者。ハ。う。乃。親。か。あ。つ。し。と。う。く。と。う。ん。と。り。
 一。分。ハ。お。つ。り。あり。只。先。親。と。せ。と。り。ま。き。り。ハ。と。し。て。仏
 法。の。形。り。と。お。ま。き。と。う。り。と。う。り。と。う。り。は。親。か。
 乃。受。物。と。し。り。ま。き。り。り。深。く。志。虚。妄。法。堅。交。不
 可。捨。と。ハ。人。と。あ。つ。た。法。は。親。か。して。あ。つ。と。め。り。の。あり
 と。し。と。う。り。と。う。り。と。う。り。と。う。り。と。う。り。と。う。り。と。う。り。
 と。う。り。の。ハ。あ。つ。と。め。り。す。あ。つ。た。或。ハ。先。祖。の。う。く。か。の。お
 と。う。り。又。と。う。り。と。う。り。と。う。り。と。う。り。と。う。り。と。う。り。と。う。り。

信すも穴わす。たろー南世の神とんふ。はじはたの芝
かろ人福徳たとの文字とてこと。さへ佛法のとなとハ
あまれば物なる者さとのるんをさるると。心鼻と
たろー。先祖より此佛法を捨ふ人あり。或ハより此お
家の佛なるよとのるるまをた。たろふ。たせとて世を
還俗せんとの。庭つ。お家のおろんたとハとて世を
まらほ媒よ。圖書たすとすろー。学ん。物志ろろり
つら還俗志ろろゆと。人は志ろろまんと。佛法とを志ろ
ゆ。やろ物あまは。わろ物の人ハ志ろり。志ろろのん。乃
目さると。のともあ。あて。志世乃佛ハ公。高尚るま
こと。学とた。功とあ。のて。人あ。教ま。おま。ん。ひ。ま。

ゆ。ハたろろ。ま。せ。た。て。ろ。あ。た。ろ。ろ。人ハ志ろろまんと
すろ。地あり。或ハ浮世ハ志ろろらあ。あ。ま。ろ。と。つ。ね。物ふ
や。ろ。一。夜。一。鉢。あ。ん。阿羅漢たとのる。ふ。お。あ。よ
ハ心欲と観一。内ハ貪嫉あ。ま。ろ。ろ。猫ろて。殺
ま。ろ。人ハ教まんとすろろの。あり。或ハ世とよろろんて。宗
ろ。と。ろ。人。を。か。ら。ぬ。ふ。ろ。れ。邪念とて。人。を。あり。未
世。お。た。り。経。の。ゆ。く。ま。あ。く。れ。若。あ。ん。佛。の。未。来。記。あ。ま
が。ろ。ろ。目。あ。ん。足。お。ろ。ろ。ま。ん。一。ふ。ろ。ろ。ろ。の。ろ。今
時。の。今。を。あ。ろ。ろ。ろ。ろ。あ。て。わ。ろ。物。を。わ。ろ。目
わ。ろ。を。な。ろ。ろ。て。涼。き。理。ろ。と。ろ。ろ。を。あ。ろ。ろ。た。れ。ん。と。ま
は。ろ。の。ま。れ。あ。て。目。乃。ま。ん。と。て。あり。や。れ。理。ハ。説

人の目ふおよびぬとすひさしくあはまらるるん。伏羲の
 三文字として中をうらぐらぐとさうじりバタふりし。是
 と八卦と名付てこ乃卦そ古と万物天地人倫の
 理りとあはれ。乾元離たのぬとまて一に。是徳人
 の目め、智め、及ぬあはる。周の文王まこ元亨利
 貞の言とさく三百八十四爻と。又周公具乃爻辭。孔
 子の十翼とほくろかろ。繫彖繫象又ハ才
 翼のありとよ。まく此名儒と通解と化ろ。又曰才
 てと昔らると智者乃傳授徳教とすりるるる。か
 きは伏羲の百千方乃中れ一分とよくまらる人まを
 かん。これハ八卦の目に及ぬぬのあり。徳人ハ有目小同

佛法も又くれれ。人東北中の西と受も。目ふ及ぬ
 斗もあらん。又あつても時とねとまらて秘し傳へ
 ぬゆもあらん。終淨飯大王乃太子あつて戒におとる
 る。輪王にたらん人そ。世とこれとひゆるかあ。あ
 事とも三世悔回の理り。鏡子浮物とく。志見ある
 あり。位とすくお家し。人そ。和量あんと又平年
 乃居。説法あり。あり。伏羲の八卦を。目ふ及ぬあり
 いんを。三世の目と目と目と。愚者あつて
 ハ。答子あつて。生育れ。存生たろゆあり。古人も現お
 多敷則得其不見とも。千聖ハ馬ハはひふ
 らび。伯樂ハはひふあし。三世の悔回ハはひふあらん

乃天地の理りと世にいつく但きまき改めぬらん世に聖賢
 の及ぬ目前をわん又世に聖賢を及ぬ我れ世に賢者と
 わん目よおとすあそとく信法とわん世に賢者らん自
 見ゆるとく徳人の目と申にさうす只世とおとす
 たるゆゑの六孔解たすの及ぬまき世に賢者の及ぬ
 ら乃とく目よおとす世に信及ぬとく自んハ釈後古
 とらん世に一未乃代はまうとく孔子乃及ぬと人ら
 ゆるまねらんいんや信はる世に及ぬとあそとく
 自んハ信する人まきまらん目よおとすまうゆと
 一又次は順孔曰先づ身をおうじつ身をおうとわんく
 うけたるらんくくくくく 爾曰身と次身ハ大身と
 いふおとすもそれとるふおとすはるあうす
 うゆすともらんくくく大身とPとくめはは
 とく信及ぬとらんくそれとすれや世人又後の世は
 ん及ぬのやせまーとく世に身はまきとく人乃人
 とく身とまきと大身の道と人らん及ぬのまき
 とハのらんまけて次身とあそとくとく

と名付く
 儂曰わん及ぬらんて教乃とくわん事ハ及ぬ也
 とおとすずして人と教らるる信とあそとく人天子と
 以て庶人よとらんまき一壹是よまき信身とすわん
 して大身乃修身の章荀子の修身篇も我れとわん

と名付く
 儂曰わん及ぬらんて教乃とくわん事ハ及ぬ也
 とおとすずして人と教らるる信とあそとく人天子と
 以て庶人よとらんまき一壹是よまき信身とすわん
 して大身乃修身の章荀子の修身篇も我れとわん

めいと申す。すうりする。まれば其才とたむる。何とて
 して人とたむる。すうりする。まれば其才とたむる。何とて
 とて。人たる。さる。すうりする。まれば其才とたむる。何とて
 人との。教家と。同。ある。其の。人との。守。よ。と。ある。すうりする。
 信。法。も。世。なる。と。わ。つ。才。を。お。さ。し。つ。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。
 お。さ。し。つ。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。
 と。わ。つ。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。
 ぐ。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。

一又次は順礼目今之れ申す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。
 也。答。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。
 人。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。

尊乃尊乃。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。
 鼠。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。
 見。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。
 傍。日。分。人。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。
 好。お。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。と。申。す。

トセリ。カキカ人々を以て人々を以て也。又ハ情欲ありて
ハ會門（きんもん）のよるともト云ん。扱てハ人のまじりとも。私欲（しやく）ハ不
まじハ畜生（ちくじやう）ハ同ト云ん。されハ佛法の中にも人麁（じやう）の
鹿（ろく）又ハ鹿麁（ろくじやう）の人トト云ふ事あり。むろ山人言ふ及
と云ふまじりひてあり。ハ徳の居る所（あま）へ居りて
ゆかりにけり。こころ海人をあてた。會物（かいぶつ）たを以て
て助（たすけ）のち。雪（ゆき）はけて里にけり。けりハ雪ハ死せず
まじり。けりハ。又ハ居る所と人間ハ。徳ハ助らま
てトトトけり。又ハ居る所の居る処とまじりとせめ同
トトトにけり。是れハ。おより。案内（あんない）者ト云ふ。けり
扱（あつか）と云ふ。そは。扱と云ふ。そのゆへ。扱と云ふ。

辟（たしな）月をわらふと云ふ。徳ハ仁慈をまはら。後まじり人なり。
人ハ慈と云ふ。孫人なり。音（ね）なり。鹿（ろく）神農
ナリ。ハ。蛇身（じやく）人面（にんめん）。牛首（ぎゆうしゆ）虎鼻（こび）。まじり。大蛇（だいじやく）此徳
あり。夏（か）集（じつ）殿（でん）付（つ）ハ。形（かたち）人ハ。一（ひと）ト云ふ。會（かい）黙（もく）乃（の）云（い）なり。
一又次ハ。順礼（じゆんらい）人の及（およ）まじり。分別（しゆべつ）ハ。けり。まじり。事（こと）まじり
ゆ。答（こたへ）曰（い）み。乃（の）云（い）なり。鹿（ろく）ハ。まじり。まじり。又文字四ツ
あ。大まじり。本（ほん）末（まつ）前後（ぜんご）。乃（の）四（よ）乃（の）字（じ）と云ふ。
まじり。あ。まじり。分別（しゆべつ）の。大まじり。まじり。又
まじり。まじり。回（かい）字（じ）と云ふ。月（げつ）中（ちゆう）。一（ひと）ハ。回（かい）字（じ）の。月（げつ）ハ
まじり。まじり。人（にん）ハ。乃（の）云（い）なり。又。乃（の）云（い）なり。乃（の）云（い）なり。
乃（の）云（い）なり。乃（の）云（い）なり。乃（の）云（い）なり。乃（の）云（い）なり。

ありませ。其の字も後の字を何とせ。何事と申さる
あ。未だ後よと申たり。いとすあ。さうのよあ。と
ま。川也。と子乃申あ。く。親と申あ。く。子。未と
と。申たり。親と申あ。く。何事と申あ。く。と。申
子乃事と申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
子乃事と申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
と。君ハ申たり。後ハ申あ。り。君乃。何れと申あ。く。と
男の。何れと申あ。く。と。男。女。兄。弟。朋友。乃。申あ。く。
と。乃。亦。さ。う。申あ。り。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
申と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
と。字と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申

上。お。意。時。お。意。方。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
意。せ。ぬ。事。ハ。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
信。日。人。の。さ。ち。申あ。り。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
て。理。り。さ。う。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
及。と。申あ。り。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
か。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
一。又。次。子。乃。礼。日。世。乃。小。学。又。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
は。申あ。り。の。さ。ち。申あ。り。人。ハ。申あ。り。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
あ。て。ら。や。答。曰。む。ま。自。つ。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申
は。申あ。り。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申あ。く。と。申

久とと楠（くすのぎ）の本乃石（いし）なり松（しょう）の年乃石（いし）なりハ
いづれとみくは。是ハ何とてありて事（こと）を人小（ひと）を
久と。本乃水（みづ）極（たぎ）風（かぜ）をふりてありたり。事（こと）ハ
屋（や）上（のうへ）本乃石（いし）なり。今日水（みづ）よりあて明日
石（いし）ハ水（みづ）ハ年（とし）とて事（こと）を人小（ひと）を
人のせれつとて事（こと）を人小（ひと）を
久と。事（こと）ハ物（もの）とて事（こと）を人小（ひと）を
とて事（こと）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
事（こと）ハ今時（いまとき）の人の事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
事（こと）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
久と。事（こと）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
久と。事（こと）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を

事（こと）ハ人（ひと）の事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
本（もと）の石（いし）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
侍（ざむらい）曰（い）人の生（なま）の事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
事（こと）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
事（こと）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
事（こと）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
事（こと）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
事（こと）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
事（こと）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
事（こと）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
事（こと）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を
事（こと）ハ事（こと）とて事（こと）を人小（ひと）を

氏上

二十四

かへりしも久しく切となりし。楠の石もさるる。野山
人のかみぬりらん。或はまらるやと針はさるる。さ
学同とくげと地ありはるる。人もあり。之れ眞事乃明
然とせり。人いふや。たつて。に。學問をりぬ。く。い
ふ。より。地。由。ゆ。ん。と。て。ま。ま。て。當。の。縁。子。勝。と。み。て
わ。ら。り。に。た。ら。る。の。所。乃。寤。ら。る。と。か。て。ま。ら。る。や。學
問。さ。ま。ら。る。六。枝。子。ぬ。ゆ。と。う。ま。ら。る。人のかみぬり
は。あ。み。あ。ゆ。ま。ん。より。お。こ。る。と。あ。ら。る。一。つ。ら。あ。る。處
伯玉八年にありて。四十九年北遊とあり。破竹乃
しくなりしあり。日皇子乃御者。八はさる。乃一言。わ
たつて。あ。ら。ぬ。め。ま。ら。る。侍。と。な。り。た。り。し。も。あり。は。た。た。か。と

下愚とハ不教とP時ハ何れ功と云へし。もあ
ぬもあらん。名しき猿もを梅根性。抑根性と
申すあり。梅ハ黒毛と申す。もあらん。もあらん。た。ら。る。
抑ハ秋のあははて。う。れ。ま。く。耳。なり。人の根性も
う。ゆ。の。物。あり。と。なり。温。而。不。縮。と。申。上。智。根。性。
乃。た。ら。る。い。ふ。さ。れ。申。人。の。か。み。と。あり。て。切。と。は。な。る。
を。あり。一。時。あ。ら。ぬ。も。あり。と。古。人。も。や。あ。ら。る。
又。次。は。順。礼。日。年。月。つ。と。ら。く。一。き。學。問。又。考。は。か。ら
ら。る。ぬ。は。何。と。い。ふ。事。あり。と。善。自。と。い。ふ。乃。は
さ。ら。る。家。事。あり。と。め。ぐ。り。わ。ら。か。さ。め。た。地
花。と。あ。ら。ぬ。め。ら。れ。な。し。と。い。ふ。事。又。ま。ら。る。ん。と。い。ふ。と

ありり。一人あり。いはれぬ。たれおせめし。こゝろ
 こゝろ。学文と。こゝろ。人。も。あり。又。ハ。貴。地。の。ぬ。め。お。こ。ろ。人。も。あ。り
 又。ハ。か。さ。り。物。の。ぬ。め。お。ほ。さ。る。人。も。あ。り。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ
 人。ハ。ま。れ。よ。し。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。人。も。あ。り。た。り。曰。衆。也。と。う
 の。は。よ。し。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ
 物。と。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。人。の。用。次。中。お。う。ほ。さ。る。ぬ。め。お
 事。又。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 人。ハ。ま。れ。よ。し。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 さ。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 あり。み。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お

と。あり。一。言。一。句。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 人。ハ。ま。れ。よ。し。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 俗。曰。曰。條。又。條。の。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 虚。少。く。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 ま。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お
 ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お。こ。ろ。ぬ。め。お

或上

二六

孝同より外書云好書而不要結仲尼書肆也
好說而不見諸仲尼說鈴也トヨリ。實は仲尼の
トして賣つてくさる。此後仲尼此言を以て傳へし。
仲尼を以て時ハ其言は彼地よりいづれも其乃世より
ゆへより。されハ一言一句ありた我地ありてまのりん
も肝要あり。雖彌千章。不羨言盡とトモ
此を以てわつた力よたこまひゆとトあり

一又次は頌礼曰君子と賢人たとの事あり。賢人の
人ともうひ山ゆく入るる人たに食地を合味の
戸にけりて。ぎひらけりさ彼より人とトいふや
若曰其を以て大はあやまるに。いふ人といふ人

生れつゝも。一を好く。またもみ人なり。賢人とつる
ハじまもつゝも。一賢人よおらるる人の学より
て。聖人のことには。ありあるを大賢とトいふ。天下は
も大甲成王とハ賢人なり。後下ハ其より。彼お
わくあり。又ハ其の戸より。小学より。おるをあり。又
山中より。引こり。時をさう。賢人をあり。市
乃中子。はまれ。おら。賢人もあり。あり。記。聖人の
おら。さ。く。り。事也。さ。ひ。て。小。人。を。賢。人。と
いふ。は。い。ん。ハ。大。小。遠。く。め。あ。て。お。く。い。は。お。小。さ。ん
らん。と。て。あり。是。ハ。何。事。に。て。聖。人。の。た。る。を
よ。り。て。ま。り。た。ま。り。と。て。ま。り。い。ふ。た。る

海二
二二二二二二

賢人あり。又生れつゝいんぎんあて人申とさうひ山
中よわてをすまう守賢人之あり。どうくそ力い美下此
まん中母をぬよ市船の中あかよ山申の隠居せ
よそれより事あすす

僧曰君子に在位と有徳とありあはれあり。有徳の君子乃
らふ賢人もまへ賢人の大なる三のあり。どうくそ力い世ふ
わつて國をおさめ民をあはれむあり。是ハ帝王世也
をあり。后下ふいよりあり。又世ふあはれかりき時を
山房中まにくま居て。さて國もおさまる人をも
どうくそ力い世の中におさまるまをあり。又どうくそ力い世を
ひりかりて一向に世よあましてたのむあり。それあを

或ハ市北中よ居もあり。山よ居もあり。まをあり。それ
舞澤よ居もあり。民間ありてはとら不言若也。
又卜筮乃乃あり。勇を令する者もあり。東方朔ハ
世を朝廷のりよまうはともしやう。是約淫のりあり。
山谷詩也を陳尚北市北中に入んをうりて愛ま
世とてまあり。陳沈とハ市船の中ふかく居る
あかくまて沈む。賢者避世其次避地をこの
ああると論語ありまは人の公あり。まあり
と賢人あをまあくあん。隱居あり世をの賢人
おは。まをま居るまをまありてうそれあや
或ハ君と三友いあて君いまはまの何ハ力と山林

てふ一世のヲ困ヲおさゆん民とたれむ人をわらん

大人の中にさまはゆき六賢志をまひくもの也賢志

と君は進すのゆぬはふけはとハしられたらんや

うくにふをり。秀ヨわたりて。我ハひより威をたすこハ

なをわさなり。物類を以てわらふとハしれたら海を

うり困其名をさへ人おはれらひあつまり。進志志ふ

進志志ハ人あつまり。大者も下の賢愚をさへ

そのさへいあつまりらんまハさへいあハ。わらねいハも

りらら賢人をまれ。又ハひてもくさへん。ざりけしハお

熱乃賢志をあつさんハ也。大名の内ハ賢臣はあつん

あつまらん。也ハの莊王の妃は樊姫トハ賢女ハらん

表のゆめおとよひて。六賢志をたさひ

よくとけんらきて。我ハひよりあれ秀ヨもを

あつよハあつてなれ。秀ヨ乃をさへいハんハと

十人ハも賢人ハも申す。賢女ハ人ありてハまれんハす耐の

はし沈令尹トト人ハとさへいハあつて。今ハまハ賢志を

たひてまはす。しうまハとさへいハと。樊姫トハ

すあら沈令尹ハ妃ハ乃トも義ハもたらして。孫叔敖トハ

賢志をたひて。君ハもさへいハり。三年ハ申す。霸王ト

となりしひり。うり。やにた賢志をさへいハを

うらハ家臣トハ。鮑叔ハ管仲トハ。齊桓ハ公ト

さへい。善ハハ陳平トハ。師ハもす。さへいハ。忠ハ良ハ

又次子唯礼日卒命なり申せしむるも。いふを交ひて
あつりるる。庭きこりひと。尸抱つりつり。庭くも。い
ふ。老人今れ。流く。同行と。おれ。き人。庭え。そのへて
こ。い。ま。り。老人。我。の。い。ら。え。ま。の。う。ら。ま。う。う。ふ。れ
ほ。え。う。く。ん。道。え。中。小。小。豆。をつ。こ。よ。ふ。子。う。う
れ。餅。を。と。り。つ。け。ら。る。是。形。と。も。小。豆。と。え。こ。え。う。り
庭。な。れ。お。ら。と。名。を。つ。お。て。い。ひ。た。れ。ぬ。事。こ。れ。あ。つ。く
た。豆。が。わ。ひ。ひ。ら。う。様。う。抱。さ。ふ。い。の。り。り。お。か。な。れ。た。
ま。し。て。う。れ。な。う。る。う。う。の。を。い。て。く。な。ぬ。ハ。な。り。
さ。く。に。を。を。ま。ら。ん。き。揚。る。を。あ。げ。身。と。え。る。み。こ。を
あ。け。け。い。ハ。実。久。く。以。人。を。も。い。れ。え。る。る。小。神。と。い。し。き。

傳曰る人尸ありハ。人これ。ん。ん。ん。小。袖。と。尸。從。小。豆。
も。中。も。ま。ま。り。ん。ん。ん。と。い。ふ。ハ。お。り。う。り。に。て。中。に。お
わ。く。綿。と。い。は。い。て。こ。こ。子。と。尸。を。い。と。を。尸。と。い。は。い。て。こ。こ。れ
海。の。こ。も。と。お。う。き。ま。り。愚。者。に。う。く。れ。利。根。を
あ。つ。ふ。尸。な。り。お。を。國。は。神。在。ら。い。と。尸。申。あ。つ。系。
お。て。せん。ま。い。ら。い。と。尸。ハ。こ。れ。と。尸。あ。ま。ら。ふ。お。十。月。は
ハ。日。本。國。の。諸。神。を。お。を。國。は。あ。つ。ま。り。あ。つ。ふ。人。子。神。
を。と。尸。あり。その。祭。子。赤。豆。を。い。て。け。を。あ。つ。し。
す。こ。餅。を。入。を。着。え。ま。う。い。を。神。在。ら。い。と。尸
う。又。神。在。と。尸。宮。も。あ。つ。と。ま。り。傳。國。あ。つ。ハ。神。在
月。也。こ。乃。神。在。月。と。尸。お。ハ。ら。ん。ん。ん。く。い。う。一。五

人のいふ十月の陰乃きこころをいふも陽小陽なり

陽月と申也。あつと云は陰なり。くうと云は陽なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

秋の末にあり。あつと云は陽なり。くうと云は陰なり。十月は

ゆきん^{神上}とゆきん^{神上}のいす。昔白民の中あしゆ
らんこそいへ侍^{さむらい}白民のうらめく國のたうあくぬた
それ上二人乃^{あひな}業花のぬめお夜登^{やのぼり}うらめらり
て國のぬめおのりてしてひらまらうらふむら
えんの板とあそめく志とのほいえとくらえぬ
格うらんはちう。又君れ用あしたを國のやめ
くぬハ戸録とえゆうえんとうりぬるなり
傍日格うらんおほく國のすしんを及理えん白民
乃おハ格うらんあはれぬのお。傍法師もを國也と
韓退^{かんたい}とたともP屋にぬうほされを韓退^{かんたい}と
格うらんの中あくぬらう。あはれぬと何人なりあは

及ぬるふのおまひをぬ。家をかうり力をかうり人を何
まてかうつひてむかひのさひやをほいぬまに
雲^{くも}をゆとらぬとあはれぬとさひな。氣を流く辨^{はん}と格
すうゆへ古よとを格^{かく}死のぬおれ。格乃^{かく}未山のお
まてと樹木と格^{かく}畠とらり桑^{くわん}柿^{かき}とをう世れと
なととあ^あハハゆ^ゆらんハまれたり屋^やうらうを國を
中よあ道地とひきき田畠^{でんはつ}と多たりハハまひひす
中い^{ちゆうい}らうゆ^ゆん^んじ^じと格^{かく}うらんとあん^ん傍^{はう}も儒^{にゆ}
とあん^んとれ世にう^うまてあ^あハあ^あす又上二人の
業^{あひな}花^か乃^のぬめお^{ぬめお}賊^{さく}室^{しつ}をけ^けひん^{ひん}半^{はん}とをさ^さら^らう^うハ
ありともさ^さら^らう^う乃^のぬ^ぬめ^めお^おハ上代^{じやうだい}ぬ^ぬめ^めお^おハ今^{いま}さ^さら^らう^うの^の業^{あひな}花^か

おろりて國のすいひする事もあらずもあらう此人之書
 けり乃ほいふとさいけりハ海に沈まず。何よもあ
 り。或すまらりり或ハ萬人手にさきおの賊の
 換すうあしわす。其世に來りて人のかあぐお
 まふゆよ。佛神のいふふりて。何れも在達一
 浩水大風元早霖ぬ。或ハ反さむびく。老ハあつてい
 めく自然とすいひすと。及ハり。佛法ハ其の世も
 けり。のれあらしを漢く。播麦の足のはるまはる
 なりと。税ぬ。さるるにしようんあう。おらりれ。く
 お君の前り。ゆはる人ら。ののののののののののの
 たる耕作とたり。素たしにをんとのまらりゆ。らんを

かみすいひもあつたり。まなり

又次は。禮曰。徳は侍のさだめ。きんせうハ初り
 おろり。さう。す。あ。し。也。答曰。う。乃。至。君。れ。り。つ。ひ。を
 の。ま。さ。う。な。り。う。り。お。ろ。り。人。の。心。の。よ。う。ん。事。を。神。
 づ。の。の。さ。わ。う。う。さ。の。と。よ。て。め。ら。ゆ。一。親。り
 かり。なる。人。ハ。君。お。ち。り。あ。る。人。の。ま。う。と。と。ん。と。と
 す。ま。あ。の。の。ハ。ま。ま。の。の。ら。り。と。す。ん。と。な。た。ら。ら。お
 い。り。り。乃。る。れ。若。ハ。な。ま。ま。よ。う。け。ひ。ま。お。り。が。御。れ。と
 ぶ。ふ。と。あ。り。せ。て。人。乃。う。り。と。さ。さ。め。ら。し。ん。ん。が
 見。お。人。の。さ。だ。め。り。

侍曰。の。若。の。う。れ。と。あ。ま。さ。ら。ん。思。よ。う。う。の。体。あ

和漢二
みながら上方好るを下のものもむく和漢うらうらみ。
楚の靈王八人の胸にけをなほ多の六下者食地を
とくたうとてあへの細屋とたひのら六鐵死する家
ものあり越の句踐と武とをなほひて楚のそくを
及て孔をたうとて六國のものをりとうりて無小死
するものたかりしげ衣とをのめ六紫衣とを著し傳衣を
あのかへ下ら者も傳衣とを著とある茶れゆとこれハ
茶の湯とを著と鞠とを著と下のものも鞠と蹴り
君ありひ六孝とこれ忠とを著と礼とこのゆえのつ
下にくれもの孝忠とを著と一と君ハ凡乃と
下のものハそれと。何れも著るひくさうとて人うら何

牛とけい一とまへとあり。何れも著るひくさうとて人うら何
物とを著と後と。庶人かおどり。齊月景公ハおどり
るも晏嬰安の物と。唐虞の世おさすれも四凶
あり。殷紂の時と。三仁あり。又これと乃との
みうらうらもあり。兵時節れありとあむとやさん。と
一人のひみあむと。まへと。侯長と乃時の著者
みまへと。まへと。れ事と。まへと。今ハ著る
と。まへと。まへと。のわきと。まへと。まへと。まへと。
おのひ。今乃をあらぬ力と。まへと。まへと。まへと。
柄と。荷の右れ肩と。まへと。まへと。まへと。まへと。

うさめハ右おすりあり。肩とらふれ九おひあれ也。
 うらと今とくき昔とある。びうは又その昔
 とわひの同うれ世おたしあれはびうを
 うらうのあし。うらよびうはわがにさるあうと
 うらぬひとあしうらぬ人さうみらるもあう。何う
 ああとおみよとにさる。うらふ今乃天下ハ方民
 とあうさる。國はうらふハ延壽天慶れとやう
 一又うらぬ礼曰るうらぬのあしうらぬらわぬさう
 人のさうたさしとあしうらぬらわぬとあし
 うらぬらわぬらうん。昔日せよ人をあうらうら
 かくてぬとぬ人おしうらぬらわぬとあしぬらぬ

むしハ天子もあしうらぬ。何とらぬのあり今
 ハた一又友とらぬの今ハた一先とらぬ
 のあしうらぬ。礼曰しうらぬの何とらぬさ
 ありとらぬとあしうらぬ。今乃たぬらぬ
 昔日ちうきはつは所たぬ。何とらぬ。國はあし
 たり人のさうたさしとあしうらぬらわぬ
 何とらぬはうらぬ。今乃たぬらぬらわぬ
 君はとらぬのつとらぬらうらぬ。今乃たぬらぬ
 うらぬらわぬとあしうらぬ。今乃たぬらぬ
 合のらうらぬらわぬ。軍はあしうらぬらわぬ
 今乃たぬらぬらわぬ。今乃たぬらぬらわぬ

幸うれする。さういふこと。三人の道徳の徳はうさうすは
仰ありといふ事。人乃たさきんともあつて。人の仰
しきもつらば仰とてわたり乃あさうとあうことハ
あま人を仰するやうして人の徳あるまひにわつ
仰とてさう。古の聖賢乃まゝに。神農ハ徳信と
仰し。黃帝ハ大撓と仰し。楚の若王ハ孫叔敖と
と仰し。越の句踐ハ范蠡と仰し。つらうとあつて我
うとともはきつらうと仰し。せんは。幸うれたうる
孔子と長弘仰襄たしと仰とさう。孔子みよるも
くう人よあつす。又おさう人なりとも仰よるも
わん項説ハ七歳ありて孔子の仰通ともまう。され

君子はつひに仰するもさう。只たを学ぶて久えは
まをる。一文ハ無文の仰し。世俗もさう。よふ家
乃代の上中下乃仰通とまう。さう乃仰ハ我ら
め。お慈の仰ありん。孔孟乃と此仰ハまう。た
ひ孔孟乃と此仰ありとも。昔の人さうハありて
益た。孔子ハ魯衛はさう。孟子ハ齊梁は
りら。つらハ偏に賣物さう。ひてさう。つら
る。つら多し。乃仰ハ倍あり。倍あり。倍あり。倍あり
越。越さう。さう。つら。つら。つら。つら。つら。つら
國よさう。つら。つら。つら。つら。つら。つら
お慈の仰ありあり。倍ありあり。つら。つら。つら。つら。つら。つら

神一
つひるまじや。借入あまのたつたつたの所西あま
うけて又申うあまのうらうらと申う。あれおけき。
と時人乃^{しつう}善法と申うよとみるお人おうら。人よ
まあなうにと忘るう。あるお他あううよ乃^{しつう}法
ひてあうてそ申うららハ。申子と申ううと
よの法と後さんたうんと申也。よひたうハ。よ
師と申の^{しつう}善法と申うぬるれと初乃^{しつう}下まを。む
いさきてそ申のこくたういりて。いそく人う
かひるれ。一切乃^{しつう}申お人の物をこれ同き也。今に
申子申うれらと申うらハ。おき師と申うは
世出^{せま}ともおうらららなりありと申也。

次おれ友の申。蓋^{たふ}若^し三友はとある人^い賢^{けん}智^ち福^{ふく}を
らに友たなり。善^{ぜん}子^し也と万^{ばん}章^{しやう}友と申ひと申
るやあり。こく申と同。らにたなり友ハ善^{ぜん}乃^のなり
あきさなはらうのぬるふ善^{ぜん}也。世^せ作^{さく}あまハ
善^{ぜん}惡^{あく}の友おらと申也。麻^あの中^{ちゆう}れらる^らはあつ
らる^ら細^{さい}。らにともぞりき。朋^{とも}のを^を方^{かた}ら^ら申
ぬら^らしと申也。佛^{ぶつ}はの中^{ちゆう}お七^{しち}徳^{とく}のあつと申
友と申とあり。既^{すで}の万里^{ばんり}とゆ^ゆハ。善^{ぜん}れ尾^びおは
は持^{もち}あり。うさなふらうて至^{いた}る^るのを^をさ^さに
ア^アら^らん^ん友^とと申て仁^{にん}と申す^すこもい^いと^と申
一^いつ^つハ^ハ鹿^か射^{しゃ}者^{しや}よ^よと申うらら乃^のも^も申^しん^んと^と申^しん^ん

友をくろく乃くくしてい乾負よも成つる也ハ
手くくく。あききともかくれ。今より友と
これゆえにゆえにこれゆえに。おれも捨る
捨あり。巧言。今も色を人あひゆく。おれも
うたぐぬハあきき友あり。たぐい色を捨る
田史燈人のぬけゆくありとも。徳のあつとも人。晏
子ハ多きあひきききとも。徳行あり。張良ハおれ
くく。あれと武略あり。宿痛くかうりあ。呉
奔國をかう。西施ハくちらうけきとも。呉國を
かたり。人の賢能ハ徳ハあり。豈くくらふあり
又孔子ハ容とて人ともあり。これと子羽ハ失

すもりきれく。きくハあききとも。母くハ乃
器くく。くくくすき。徳のあつ。梅く
を揚の花よ白もせて。柳の枝よきくせく。く
わんハきくくく
一又次。於礼曰大物の命ハ行むき。地きり。野
か。山ハ移るも。命くく。あききとも。人ともあり。ま
又あきき。みるん。あききとも。あききとも。あき
さくく。ひもあききとも。さくく。みえく。け
乃をもちく。くくく。くく。徳ハ。光
あきき。くく。あききとも。あききとも。あき
あきき。あききとも。あききとも。あききとも。

て上代の^{神代}の^{聖人}の^名の^約は^あら^ずハ^おか^しら^ぬ。醫^いの
志^しの^よう^くと^らく^ら。醫^い書^しも^ゆに^より^て脈^{みやく}を
とりて人の生^な死^しを^あら^わせ^り。此^{こゝ}
名^な醫^いの^地の^ゆり^ゆハ^醫之^の中^の小^の脈^のの^ゆ細^こは^大
と^時の^いち^の脈^をと^りて^今生^を死^をと^りん^ハま^う道^を
た^りん。日^に知^ひひ^ろく^とせ^とも^とま^りハ^三命^を記^す
それ^を時^にふ^らう^てた^らひ^あり^古人^言文^中の^易易^を
指^さ下^の難^めと^しり^{。文}章^の中^に脈^の事^をと^らふ^{。小}
書^とと^らめ^ハ初^めの^所す^まり^{。指}の^下乃^もく^く
わ^らう^{。死}く^らう^{。と}ら^ひと^らい^とあ^り。運^ん命^を
乃^もく^くの^こと^をあ^らわ^ん。運^ん命^をと^りて^死ふ^こ

あ^のい^ちや^あら^ん。運^んつ^まね^と生^をと^りて^死ふ^こ
そ^の回^の君^其辞^五死^をと^り也^{。執}庸^次之^{。以}歸^次
權^次之^{。隆}為^下と^しり^{。死}之^と也^{。と}ら^ハ死^をと^りて^死ふ^こ
と^しら^ん也^{。但}た^とし^ハ自^刻と^しり^{。運}命^は法^をと^らふ^を
ん^{。死}す^らし^もう^乃家^老と^ハ命^をあ^らわ^ん又^本意^をと^ら
ら^んも^あら^ん。猶^もと^らう^ら。常^も時^にふ^らう^てと^らふ^を
と^らふ^すも^あら^ん。家^には^梅を^残と^らふ^人
ふ^{。運}命^をと^らう^{。と}ら^ふて^すん^ねも^とら^ん。と^らふ^こ
と^時ハ^時も^あら^ん。又^時ハ^時も^あら^ん。と^らふ^こ
天^下を^動く^て死^ふこ^らふ^ハ一^ハ侍^の面^目也^{。た}ら^ん
初^めの^所す^まり^{。と}ら^ふて^死ふ^こら^ん。と^らふ^こ

紙上 四十三

一は家管見のなほは。軍書ありてしめしむ。
 此の一人も少く。実小重衡石田治部少将を以て
 わさまりきは合さるるやうに以て軍書とありし
 ことありたり。且その所あり若くはひて。
 小次郎小次郎ありんか
 又次小次郎曰大勇小勇仁儀此勇血氣此勇と
 以て事のゆりゆりありしひひ。
 昔曰血氣の勇としむ。むつら此を以て仁義
 の勇としむ。此理はゆり此を以て小勇と一人
 乃て天下を以て此の事とす。大勇と一人
 かしふとくは抱のくすをきん。諸人より此とハリ
 ともゆりす。けひさ我まありて。大なる功を
 かなし。大勇とす。
 侍曰孔子乃才子に子路ハ勇をこめり。ある時孔
 子ハ強とす。ひあり。強ハ勇也。孔子乃て
 南方ハ強ク北方ハ強ク。南方ハ君子ハ勇也。北方ハ
 小人ハ勇あり。大小ハ勇ハ孟子ハ齊王ハ
 子ハ狗彘の勇。賈次無の勇。かの四勇とせり。
 夫ら小君子ハ勇ハ一ハ列伶ハ助ハ拳を

夫ら小君子ハ勇ハ一ハ列伶ハ助ハ拳を

ねむりてはとて人まてまぬ屋れ申す。おまを
 依奉^{まか}を志めりうかふいあてられぬと尸^し申す。屋^や乃
 申す尸^し也。齊^{せい}此^こ國^{こく}は勇^{ゆう}をこのむ人あり。人々來
 郭^{かく}あり。一人^{ひと}ハ西^{せい}郭^{かく}あり。一^{ひと}あつ時^{とき}あ人^{ひと}たあ^ありお
 勇^{ゆう}をこのむなるれ。爾^にを乃^のもや教^{しやう}益^{えき}たりし。人
 曰^いりふとりてゆくと尸^しけり。人曰^いりうあ^ありて
 肉^{にく}ありう乃^のたうを肉^{にく}あり。人そお^おりてめんと尸^し。
 刀^{かたな}とぬきめんくの力^{ちから}肉^{にく}をまうけた。たひふまて終
 くとくめてあ人^{ひと}ともふ死^しして屋^やをゆりやれ勇^{ゆう}
 ハお人の勇^{ゆう}れ肉^{にく}を下の下^{した}る人^{ひと}。勇^{ゆう}行^いて勇^{ゆう}り
 ありず。勇^{ゆう}者^{もの}ハ不^ふ懼^くと尸^し。志^しあ^あくあ^あるを家^けらふ

物^{もの}ふれとまて此^こハ一切^{いっせつ}乃^のすれぬ終^{しゆう}すう^うハた勇^{ゆう}力^{ちから}は
 ちりまや。されハ商人^{しやうじん}のあぬ田^{でん}。おそ終^{しゆう}一^{ひと}山^{さん}
 海^{うみ}とあつて。あまのい^いありてハ勇^{ゆう}あり。大^{だい}工^{こう}の
 大^{だい}工^{こう}のあ^あり。か^かれ柁^{しやう}ぬきとま^まるも勇^{ゆう}也^{なり}。
 又^{また}海^{うみ}士^し乃^の風^{ふう}波^はの難^{なん}とあ^ありて小^{せう}あ^あり。あ^あり。約^{やく}
 とま^まるも勇^{ゆう}あり。獵^{りやう}者^{もの}のら^らま^まるも勇^{ゆう}也^{なり}。
 乃^のて若^{じやく}石^{せき}の險^{けん}一^{ひと}きとほ^ほひて歎^{なげ}とるも勇^{ゆう}也^{なり}。
 さ^さてあ^ありてはか^か家の^けの上^{うへ}ゆも勇^{ゆう}わんと尸^し也^{なり}。後^ご乃^の法^{ぽう}
 と終^{しゆう}すう^うま^まるも勇^{ゆう}あり。乃^の今^{いま}ふ^ふあ^ありて
 とも行^います。あ^ありては^は法^{ぽう}と法^{ぽう}をぬきも勇^{ゆう}也^{なり}。
 乃^の行^いと尸^し。又^{また}急^{きやく}志^しを難^{なん}族^{しやく}乃^のゆ^ゆま^まるも勇^{ゆう}也^{なり}。

けり
還俗とすあわのの今かきまき戸ののハ親族
乃まのひたしおほいそしはほろぬるすといさるを
も勇とすありまき小強栗三の境小退悟せず
あこははまきとむと勇掃とすなり 侍曰され
勇はゆるまきとす一切まきとありありなり
人の勇者とばひまき北方ハ勇とるとまきなり
しりまきとすまきとすなりとありありなり
又次ハ順礼自徳園とありありありありあり
のまきとありありありありありありありあり
あこまきとありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありあり

和上

一五

えぶ

をありありありありありありありありありあり
大かありありありありありありありありありあり
をありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり
まきとありありありありありありありありありあり

戦上

四十六

いふて此のあり河にんれどうらとせんと
う福てうらくくくくみゆまふあひあうら
孫一まふあす

侍曰君より人かこ乃一照ハ一から此の如なり。
あつて主君の國をおさるは刑と法との二
おさるのとす。刑と法と貴爵の事也。人主
あつて貴爵とす。時ハ群臣の威をおさる
其貴とたの志ひあり。君の君よりゆゑ人の貴爵を
以て君とす。刑ハ人主あり貴爵の家老
よりあり。群臣の貴とす。人主ハ人主の
法とす。されば國を治るの貴をおさるひて法をたて

竹間云と殺せり又法と人主よりて刑と法と
てかりあはれあきあり。されば宋君は乃法と
かり。子也。干ハ乃刑をおさるひ。六くつて宋君
とおびやうす。そくしんや刑と法の事也。
ハ國ありびんす。禮とめくはるす。趙高ク二
世とす。玉奔る侯のうそく。た貴爵を
人主のふありておさる。あつてあはれと人主の
一人して刑と法と。あつて貴とす。貴とす。あつて
あつてゆへ忠す。又刑と法と刑と法と
は。人主とあはれ。あつて刑と法の事也。
あつて。又天下の威をおさる。四海は法とす。

八段と賢治の事すもあわいあつたの的悉思しは
 乃後よりめ隠岐を聘ひ一終まも受得威恵いけいの
 事すもいんあつたのよきまは唐かうみ八将やくあり周しゆは十
 乱治あり仲尼の衛あひあり一は趙鞅てう傳てんをおり千來
 魏ぎありあり一秦しん人じんをを辱づむらうし賢治ありにら
 かりこれゆへ人じんをたうらうさ後ごよりらあふたつたの
 事だたら一人の賢治をころは人じんまを賢治をころえ
 ままじゆへいりりありとてあり又また不肖ふせうをさう人
 又また不肖ふせうのの君と怒おこてさけらるしありんめまはきり
 う乃極ごくとありりさうら乃情じやうとありあり賢治をころは
 して賢治をころす不肖ふせうさうりして不肖ふせうをころは

ぬゆつふとほや賢治日ひふささく見不肖ふせうはめく
 あまゆえて群臣ぐんしん万民ばんじんの感いとさうまむ書しよをた
 のきたるて国くにをささるを格かくさうらるる一礼れいをとり一
 威いとさうとめとサハクをゆるむ枕まくら朴く子こ明主めいしゆ躬操くわんそう
 威い息い不ふ假か久きう以い利器りきとレサリ利器りきハ貴き四討しゆたう乃の三
 柄へありさうさう又また威い息いを假かさすともレサリや入
 乃日上のじつじやう寒かんのふさめし是このつゆりゆりく書しよをさし各かく由ゆ本ほん
 ありん書しよめり我われふゆ物もの書しよ付つなめさし物ものをさし實じつ收しゆひり也
 併へい日にち物ものさうりゆりゆみさうりやめさうりゆりゆりも
 たらさす。廣くわう孝かう宏かうこれ人のをゆりもさうり物ものゆり
 理りゆりありまをさうり書しよを論ろん一。中ちゆうさうり人

4年 月
田 大

の人多るるの三綱^補本^未前後ハ仁^徳と徳
なり。仁者^みおほしきハ三五ハたしうしすお大
乃勇^いあしれさこ^いは勇^い徳^いなり。知仁^い勇^い此^い三^い徳^い
とあま^いへり^い進^いころ^い事^い勉^いて^い記^い知^い若^いれ^い分^い別^い
なり。下^い卷^いハ^いる^いを^い行^いり^いろ^いを^い事^いる^いん^いと^いそ^い乃^い
後^いは^いお^いり^いの^いり^いの^いり^い

の人多るるの三綱^補本^未前後ハ仁徳と徳
あり。仁者^みおほく^とハ三五ハた^しし^ずお大^小
乃勇^たあ^しれ^きこ^きハ勇^たは^るり。知仁^勇此^三徳
とあま^へく^まこ^り事^ゆえ^て記^知者^れ分^別
なり。下^巻ハる^を行^り一^ろき^事ある^んと^て之^乃
依^より^おけ^りと^りい^へり

